

## 学外授業が実施されました

平成 25 年度の学外授業が 8 月 20 日(火)、蒲郡市三谷にある愛知県水産試験場で実施されました。この授業は「生物集団システム論特論」（鈴木輝明特任教授）と「生物情報学特論」（高倍昭洋教授）の一環として、愛知県水産試験場と国土交通省中部地方整備局三河港湾事務所の協力を得て行われるもので、三河湾の環境の実態や環境保全への取り組みを目で見て、肌で感じてもらうことを目的としています。総合学術研究科が掲げる「自然と人間の共生」の理念の実現を目指して、設立時から行ってきましたが、今回は、総合学術研究科の学生、科目等履修生と研究生、理工学部環境創造学科学生、教職員が参加しました。



最初に愛知県水産試験場の宮川場長の挨拶の後、鈴木輝明特任教授から三河湾の概略について、全国でも有数の漁場である、三河湾の中でも特に六条干潟と呼ばれる干潟はアサリの稚貝の供給源となっているが、同時に埋め立てによる赤潮発生など環境悪化による貧酸素水塊による影響も深刻であるので、この実態をしっかりと体験してきて欲しいとの説明を受けました。その後、国土交通省中部地方整備局三河港湾事務所所属船「しおさい」に乗り、三河港湾の数点の調査地点において、海

洋環境実習を実施しました。溶存酸素濃度は、深度により著しく変化し、底面に近づく濃度がほとんどゼロとなり貧酸素状態になっていることを実感していました。また、海底土も測定地点によって大きく異なり、参加者は、同じ湾内でも環境の違いが大きいことに驚いていました。また、途中、スナメリ（小型イルカ）に遭遇する一幕もありました。帰港後、水産試験場および国土交通省の方から、水産試験場の研究活動 および三河湾の役割についてそれぞれ説明がありました。さらに、調査船で採取した試料の顕微鏡観察、干潟メソコム施設の見学を行いました。

わずか 1 日だけの実習でしたが、参加した院生たちの、海洋に対する意識が今後高まることが期待されます。

学外授業全体のスケジュールは [こちら](#) をご覧下さい。実習風景写真も載せています。

